

せいび

『 生き物探しのすすめ 』

校長 樋口 奈津子

登校してくる子どもたちの中に、虫かごを大事そうに持ってくる人がいます。おたまじゃくしやカエル、カナヘビ、モンシロチョウ、クワガタ、ダンゴムシなど、それぞれのお気に入りの生き物が虫かごに入っています。休み時間なども生き物採集に励んでいる人がいます。



このダンゴムシは、メスなんだよ。〇〇さんに教えてもらった。



シュレーゲル（カエルの種類）を見つけたんだよ。M先生のカエルと結婚させて、卵を産んでもらうんだ。



生き物を捕まえながら、いろいろな発見・学びをしています。もちろん、生き物があまり好きでない子もいますが、理科の学習の中で触れ合う機会があるのです。3年生では「モンシロチョウ」を、5年生では「メダカ」を飼育しながら、学びます。

先日、5年生の教室に行ったとき、一生懸命メダカの世話をしている場面に遭遇しました。水槽の水替えをしているグループ、メダカが産み付けた卵を採取するグループ、赤ちゃんメダカにどうやってエサをあげたらよいか考え実践するグループなど、それぞれがメダカのことを考えながら行動していました。最初のころは、メダカがうまく育たなかったこともあり、命をつないでいくことに注視している5年生です。卵からかえったメダカが、大きくなるのを楽しみにしています。

3年生は、一人一匹ずつモンシロチョウを卵から育てていました。モンシロチョウになる前に、幼虫のまま亡くなってしまうこともあったので、毎日のお世話に力が入っていました。エサのキャベツを与えたり、幼虫のふんを片づけたり、ケースが乾燥しないように霧吹きを掛けたり…丁寧なお世話をしていました。そのかいがあって全員のさなぎが羽化し、みんな大喜びでした。

実は、私も生き物が好きで、イモリを飼っていたことがありました。イモリは、スズランテープを水槽に入れておくと、そこに卵を産み付けてくれました。卵からかえったチビイモリは、それはそれはかわいいのです。でも、私には、イモリを大きく育て上げることはできませんでした。どうやったら大きく育つか考えながらチャレンジしましたが、達成できませんでした。

私も体験しましたが、生き物と触れ合うことで、命の大切さを学びます。ときには、食物連鎖の中で、バッタがカエルのエサになるところなども目の当たりにし、自然界の厳しさも学びます。小学生のうちに、自然にどっぷりつかり、楽しんでほしいと思います。これからの人生の中で、豊かな経験の一つとなっていくはずです。ゲームやユーチューブは少しお休みして、家族で「生き物探し」「植物探し」を試みませんか。きっと楽しい時間になると思います。